



「億分の1の孤独」

私は自画像を描いたことがなかった。この企画の誘いを頂いてから【自画像】自分というものを改めて考えてみた。

私とは、父と母の子である。父と母は?そのまた父と母の子である。というように、過去をさかのぼれば命の無限地獄である。私も元々は父と母の細胞だったと考えれば、過去には【死】が存在していないようにさえ思える。

今回の作品について、背景はポーリングメディウムを用いたフルイドアートというのを意識してみた。これは私に行き着くまでの先祖達の命の流れのイメージである。そして無数に思える点の数々は、過去の個のイメージである。

全ての命は流れ、混ざり合いながらも孤立している。そして現在の私に至っている。過去の生命の集合体が【私】ではない。

多くの命を犠牲にした産物が、
この【孤立した私】なのだ。